

写真文化3

2013



「PORTRAITS of THE EXISTENCE #45」 矢吹 尚也

日本写真文化協会機関誌 写真文化 3

2013

表紙のひとこと



撮影：矢吹 尚也（矢吹写真館 北海道稚内市）

人物を撮影する時、目的は何かを考える。その目的が、その人物、個人の姿をよりよく美しく記録する場合と、それ以外の場合……。

人物、その個人を撮影していても、まるで風景を写すときの感覚に近いような気持ちで撮影することがある。

C・O・N・T・E・N・T・S

JPCニュース

- 第2回常任理事会・理事会開催 4
- 特集・夏期大講師作品紹介
- 加藤 敏夫 18
- 石川 孝志 20
- 木田 陽子 22
- 滝澤 一浩 24
- 写文協25年度行事日程 26

- ポートレートギャラリー新春企画展
・白川議員写真展 27

- トピックス
 - ・写真家・石川良男遺作展 28
 - ・フラワーフォトクラブ写真集 28
 - ・写文協・写館協二団体新年会 28
 - ・三坂康一写真展 29
 - ・美インプレッション三人展 29

ポートレートギャラリー 作品誌上巻

- 第23回こまちフォトクラブ写真展
「詩情を追って」 14
- 四谷写真塾「第8回合同展」 14
- 日本大学芸術学部写真学科
卒業制作選抜展 15
- 青野 恭典とネイチャーフォト
「青」の会選抜展 15

- 作家シリーズ「わたしの一枚」
伊豆倉 淳
北海道帯広市・(有)伊豆倉写真館 5

- 私のライフワーク
矢吹 尚也
北海道稚内市・矢吹写真館 8

- 作画姿勢
工藤 二男
北海道釧路市 17
- 玉内 公一のデジタルフォト講座
ライティングを考える その3 12

作品

- クラブ グループ展
A75+ 10
- 写真専攻学生 作品紹介
東北芸術工科大学 16

広告協賛会社

- (株)東京プロカラーラボ 30
- (株)神 原 30
- (株)フジカラーブロフォトセンター 30
- ダイコロ(株) 31
- (株)キヨーコロ 31
- (株)トーコロ 31
- 富士フィルムイメージングシステムズ(株) 32



「PORTRAITS of THE EXISTENCE #8」



プロフィール

矢吹 尚也

(矢吹写真館 北海道稚内市)

2012年「PORTRAITS OF THE EXISTENCE ー人・静物・風景の肖像ー」というタイトルの写真展を行った。

人・静物(有機物)・風景を3点一組みとして展示する方法で、3つの異なるモチーフを並列させ、別々に存在しているように見えるものと同じ視点で視ることを目的とし、人物を撮影する際に意識している「風景を写すように人物を写す」という事を中心に、静物を写す時には、人物と向かい合う時のように。風景を写す時には人物や静物と向き合う時のように、生命のある個体と向き合うつもりで写すことを念頭に置いていた。

展示に於いては、会場に流していた音源と写真の関係について多くの来場者と話す機会があり、映像にとって音楽



「PORTRAITS of THE EXISTENCE #24」

を含む環境が大きく影響することを改めて感じたことが出来た。また、雪原の曲線に対して、「音のような風景」、ポートレートには「太古より続く生命のリレーション」など、置いていたノートに書かれていた来場者の言葉は、自分の中にはなかった言葉で写真について表現されていたことに対して感銘を受けた。

そして色々な分野の作家やミュージシャン。初めて写真展を見るという人。数十年前に当スタジオで撮影したことがあると言って訪ねてくださった方など様々な人々と交流することが出来、ここからまた新しい何かが生まれるのはないかと感じられた。そしてまた、その感覚を維持し続けてゆくことが生涯の目標になっていくのだを感じている。

最後に写真展のポスターに掲載した文章を記したいと思う。

To see a world in a grain of sand「一粒の砂に世界を見る」視界に入るものの全てが「世界」とつながっていることを意味するウイリアム・ブレイクの詩の一節のように、対象がなんであれ、今、ここに存在するという事の不思議さ、そして、それを見ている自身も今ここに存在しているという事。

写真を撮るという行為は自分と自分以外の存在がゆるやかに「均衡」していくという事。対象となる「そのもの」ではなく、東方、その「均衡」していく様子と写真の中に見えないかたちで存在している自身を含む「世界」を撮りたい。